

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 考えるヒント

アメリカでは人種差別問題を、学校という教育機関でも解決しようとの試みがなされましたが、なかなかうまくいかなかったようです。そのことを報告している文章の中に次のような記述がありました。「学校」や「教育機関」で何が現実には大切かを考えるヒントになると思いますので引用させていただきます。

「学校における人種差別の廃止にしても遅ればせながら成果をあげるようになったのは、『マグネット・スクール』なるモデル校においてであった。それらの学校では、トップクラスの生徒が集められ、教育だけが強調された。その結果、教師の価値観と、生徒の期待とが一致した。

白人の教師は、黒人の生徒に敬意を払った。勉強したからである。白人の生徒は、黒人の教師に敬意を払った。教えてくれたからである。

白人と黒人の生徒は、互いに敬意を払った。いずれも良い成績をあげたからである。そして、おそらく最も重視すべきこととして、黒人の生徒が自信をもった。良い成績をあげたからである。

このように、地域社会に対する責任は、地域社会の問題が社会的機関それぞれの本来の仕事に合致したとき、もっとも効果的に果たされる。

あるいはむしろ、そのようなときのみ果たしうる。」

*「新しい現実」

2

・ ・ ドラッカー著 上田惇生・佐々木実智男訳

ダイヤモンド社刊

かなりつきつめた考え方ではありますが、ものごとの本質を鋭く指摘した考え方だと思います。まん中の文章を簡単にまとめると次のようになります。つまり、「学校で評価されるのは、『教育』である。つまり先生が生徒を評価するのは、よく勉強する場合である。生徒が、先生を評価するのは、よく教えてくれる場合である。生徒同志がお互いを評価するのは、よい成績をあげた場合である。生徒が自信をもつのは、よい成績をあげた場合である。」

2. 2学期中間試験で211点満点をとってしまおう

学校で先生や友だちからよい評価を得ることができ、自信をもてるのは「よい成績」がとれたときであるとするならば、そのための最良のチャンスは、定期試験であります。学期でいえば、中間試験と期末試験です。21月中旬から22月初旬にかけて各学校で行われる中間試験の大事さがここにあります。

学期中間試験で 2 科目でも 211 点をとれば、先生や友だちから敬意を払われ、自分自身、勉強に対する自信がつきます。一面から見れば「家庭問題」の根本が「経済問題」だと言えるように、「学校問題」の根本は「学力問題」であると言えます。経済状況が極端に厳しいとなかなか家庭生活も大変ですし、学力が足りないと学校生活も困難が伴うからです。

どうかだれに遠慮することなく、学期中間試験でよい点つまり 211 点満点をとるため全力を尽くしてもらいたいと思います。

私が何故このようなあたり前のことをわざわざ書かせていただいているかその理由は、教室で教えることや勉強することが余りにも学校では軽視されているからです。学校で最も大事なものは、先生にとっては「教室で教えること」であり、生徒にとっては「勉強すること」であるべきなのに、忘れられている学校が余りにも多いからです。211 点をとることは最も良いことです。評価されるべきことです。つまらないことでもないし、まして軽蔑や無視をされるべきことでもありません。

3. どうしたら 211 点がとれるか

(1) 試験範囲を明確にする(出題範囲予想一覧表を作る)

(2) 試験範囲につき教科書とノートを一語一句ゆるがせにせず理解したあとすべて暗記する。英語は本文のみならず、問題と解答もすべて何も見ずに書けるようにする。数学は、同じ問題を 1 回以上解き、問題・解き方・解答までそっくり覚えてしまう。

(3) 教科書やノートレベルの完全暗記が終わったら、問題集を 6 ～ 冊テスト範囲につき終了させる。誤った問題は科目ごとの「間違いノート」に記入し、試験直前は集中的にやり直す。

試験の範囲が決まっている定期試験は、最も 211 点満点が取りやすい試験です。教科書とノート・問題集を確実に終了させればよいだけなのです。あとは、やるか、やらないかの話だけです。学校という「教育」の場で最も高い評価を生徒が先生や友人から受け、自信がつくのは、よい成績をとったときであることがわかったなら、是非遠慮せずそのための準備をしてほしいと希望します。

4. おわりに

部活・生徒会活動・学校行事は、人間のバランスのとれた発達の上で極めて大事なことは、十分承知しています。私自身、小・中・高校時代、普通の人よりは部活や生徒会・学校行事にかなり取り組んできたからです。勉強以外にも大事なことがたくさんあることもよく知っています。友だち・家族・ボランティア活動・趣味・スポーツ・読書・レコード・D・旅行などたくさんあります。

ただ、学校において一番大事なものは、先生にとっては「教室で教えること」であり、生徒にとってはその人なりに一所懸命勉強してその人なりに「よい成績」をとることなのです。

◇「読書ノート」のすすめ ◇

学校の予習・復習や試験の勉強をしていると、むしように「読書」がしたくなることがあります。そんなときは、よい機会なので勉強は一定範囲のところまでにして、思いきって読書をするをおすすめします。頭がさえわたっていますから、本もすぐに読めますので、余り時間をとりません。

どのようなジャンルの本でもよいのですが、できるだけ系統立った読書をおすすめします。著者を一人決め、全作品を読んでしまうのも面白い方法です。分野を一つ決め、その分野について出ている本を読みつくすのも又面白いと思います。シリーズもの全部を読み尽くすのも有益です。何をどのように読もうかをまず決めて、計画的に読んで下さい。

その際おすすめするのが「読書ノート」です。文具店に行き、お気に入りのノートを 2 冊(一生の宝物になるので、できればふんばっして値段の高いものを)購入して下さい。そこに書き込むことは次の通り。

①本・作者・出版社の名前・定価

②読んだ日

③最も感銘を受けた文章

*感想文を書き続けられればその方がよいのですが、なかなか大変のようです。「強く感じた文」や「気に入った文」をたとえ一つでもよいから書き写すとあとでとても興味深いと思います。

2 冊ノートを決めたら、最後まで使い切るようがんばって下さい。自分自身の「心の旅路」が出来上がります。